

条件表現バ、タラ、ナラの使用の個人差

奈良 夕里枝

1. はじめに

言語運用における個人差という観点からすれば、たとえば、条件接続辞バ、タラ、ナラについては言い換えができる場合もあり、その選択にも個人差がある。さらに同じ質問を受けても、条件表現を使用して返答する場合もあれば、使用せずに返答をすることもありうる。このような表現の選択肢が日本語学習者の学習において困難を感じさせる一つの要因になっていると考えられる。

本論考では条件表現の使用にどの程度の個人差があるのかをコーパスで数値的に調査し、「将来の夢」と「二者択一」について質問されたときの返答で使用される条件表現の用法の特徴を分析する。さらに、同様の質問に対して条件表現を使用せずに返答する例も検討することで、条件表現が持つ特徴についても考察する。

個人差を対象とした先行研究は第二言語習得、幼児言語習得、認知言語学の分野においては盛んであるが、成人の日本語母語話者が算出した日本語の個人差に関する論文は管見の限りない。条件表現に関しては日高（2017）などで、地方差に関する指摘がされている。

調査資料として「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」を使用する。これは、12の言語を母語とする日本語学習者および日本語母語話者50名に対して、各種タスクや30分の対話を同じ内容と同じ流れでデータ化したものである。質問内容が統一されているため、条件表現を使用するかしないか、どの条件表現形式を使用するかを調査対象者が選択しており、個人差を測ることが可能な資料であると考えられる。対話の中に『(4) 未来のことを聞く、意見陳述 将来の夢、議論「都会に住むか田舎に住むか」、議論「お金と時間とどちらが大事か」など』という項目があり、条件表現の仮定的用法が使用されやすいトピックについて会話を展開している点においても条件表現使用の個人差を調査するのに適した

コーパスであると言える。

2. 本論

まず、調査協力者の属性と条件表現バ、タラ、ナラの使用傾向について見ていく。調査協力者の背景情報は「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」のフェイスシートを参照した。

表1 調査協力者の背景情報と条件表現バ、タラ、ナラの使用回数

ID	性別	年齢	小学校卒業（12歳）までに住んでいた所とその年数	現在住んでいるところとその年数	バ	タラ	ナラ	バ タラ ナラ 計
JJ01	男	24	東京都（12年）	東京都（12年）	6	10	0	16
JJ02	女	50	東京都（12年）	東京都（50年）	5	9	0	14
JJ03	男	27	鳥取県（12年）	神奈川県（2年）	12	6	6	24
JJ04	男	26	群馬県（12年）	東京都（1年）	8	7	0	15
JJ05	男	31	東京都（6年） アメリカ（6年）	東京都（19年）	30	1	1	32
JJ06	女	20	長野県（18年）	東京都（1年）	4	9	0	13
JJ07	女	25	東京都（12年）	東京都（24年）	5	7	1	13
JJ08	女	27	熊本県（12年）	東京都（1年）	5	16	1	22
JJ09	女	46	東京都（12年）	東京都（46年）	6	0	2	8
JJ10	女	39	東京都（12年）	神奈川県（26年）	4	11	0	15
JJ11	女	20	東京都（20年）*	東京都（20年）	4	11	0	15
JJ12	男	39	兵庫県（12年）	東京都（3年）	20	3	0	23
JJ13	男	29	福島県（12年）	神奈川県（10年）	12	5	0	17
JJ14	女	22	東京都（2年） 山梨県（10年）	山梨県（20年）	6	17	0	23
JJ15	女	20	神奈川県（10年） 東京都（2年）	東京都*	0	12	0	12

条件表現バ、タラ、ナラの使用の個人差

I D	性別	年齢	小学校卒業（12歳）までに住んでいた所とその年数	現在住んでいるところとその年数	バ	タラ	ナラ	バラ ナラ 計
JJJ16	女	38	東京都（12年）	東京都（38年）	6	12	1	19
JJJ17	女	41	東京都（12年）	東京都（41年）	10	5	0	15
JJJ18	女	39	岐阜県（4年） 三重県（6年） 東京都（2年）	東京都（25年）	17	17	2	36
JJJ19	女	32	東京都（12年）	東京都（32年）	17	17	0	34
JJJ20	女	21	千葉県（1年） 広島県（2年） 山口県（12年）*	東京都（2年）	2	5	1	8
JJJ21	女	21	神奈川県（12年）	東京都（3年）	10	15	1	26
JJJ23	女	43	東京都（1年） アメリカ（1年） 東京都（1年） 高知県（9年）	東京都*	6	19	1	26
JJJ24	男	33	兵庫県（12年）	東京都（3年）	7	12	1	20
JJJ25	男	24	長野県（12年）	東京都（1年）	11	10	0	21
JJJ26	男	36	埼玉県（12年）	埼玉県（33年）	21	13	0	34
JJJ27	男	24	新潟県（1年） 東京都（11年）	東京都（23年）	6	13	0	19
JJJ28	男	23	東京都（12年）	東京都（21年）	13	13	2	28
JJJ29	女	32	高知県（12年）	東京都（11年）	4	8	0	12
JJJ30	女	35	東京都（12年）	東京都（32年）	0	14	1	15
JJJ31	女	45	神奈川県（5年） 東京都（7年）	東京都（14年）	7	8	1	16
JJJ32	女	49	東京都（12年）	東京都（48年）	7	12	0	19
JJJ33	女	49	東京都（12年）	東京都（48年）	10	9	1	20
JJJ35	男	35	東京都（6年） 神奈川県（6年）	神奈川県（28年）	18	14	3	35

I D	性別	年齢	小学校卒業（12歳）までに住んでいた所とその年数	現在住んでいるところとその年数	バ	タラ	ナラ	バ タラ ナラ 計
JJJ36	男	42	神奈川県（12年）	東京都（18年）	12	16	1	29
JJJ37	男	42	埼玉県（12年）	埼玉県（41年）	30	32	3	65
JJJ39	女	29	広島県（12年）	広島県（28年）	5	45	0	50
JJJ43	女	39	答えたくない／ 答えられない	東京都（25年）	14	19	3	36
JJJ44	男	27	長野県（12年）	東京都（6年）	8	4	0	12
JJJ45	男	30	石川県（9年） 富山県（3年）	東京都（1年）	7	28	1	36
JJJ46	女	38	東京都（12年）	東京都（34年）	10	16	0	26
JJJ47	女	53	東京都（12年）	東京都（45年）	12	19	2	33
JJJ48	男	46	秋田（7年）*	埼玉県（12年）	7	2	0	9
JJJ49	男	55	岐阜県（6年）*	東京都（32年）	13	9	2	24
JJJ50	男	53	京都（12年）	埼玉県（20年）	7	18	1	26
JJJ51	男	24	神奈川県（1年） 新潟県（11年）	茨城県（5年）	14	13	2	29
JJJ52	女	22	北海道（3年） 千葉（15年）*	東京都（3年）	6	11	3	20
JJJ54	男	45	埼玉県（12年）	東京都（2年）	24	15	1	40
JJJ55	男	41	東京都（5年） 静岡県（7年）	東京都（10年）	7	30	0	37
JJJ56	男	40	東京都（12年）	東京都（30年）	7	9	1	17
JJJ57	女	43	新潟県（18年）*	神奈川県（16年）	5	9	0	14
					計487	計635	計46	計1,168

*は協力者自身が記入したままの回答

バ、タ、ナラの条件表現を30回以上使用した調査協力者は男性7人女性5人であった。調査協力者全体の構成が男性23人、女性27人であることも考慮すると、条件表現を30回以上使用した調査協力者の男性は30.4%、女性は18.5%となる。

また、調査協力者の年齢構成は20代18人、30代15人、40代13人、50代4人となっているが、30回以上条件表現を使用しているのは20代1人、30代6人、40代2人、50代1人であり、20代の使用が少ないことがわかる。条件文は因果関係を表す論理文である。男女差を考えた場合、男性の方が女性よりも因果関係を明示的に表そうとしていると考えられる。また、年代を見ると、30代以上の社会経験のある世代がより因果関係を明示的にとらえて条件表現を多く産出していると考えられる。

表1よりバの使用が最も多かったのはJJJ05（男）とJJJ37（男）で30回であり、最も少なかったはJJJ15（女）で0回である。タラの使用が最も多かったのはJJJ39（女）の45回で、最も少なかったのはJJJ05（男）の1回である。ナラは全体として使用回数が少なく、全調査協力者の使用は0回から3回の間となっている。このことからバとタラについてはかなりの個人差が見られることがわかる。

同じ話題に対し、このような個人差が生じるのはなぜだろうか。ある調査協力者が条件表現を使用している話題で、条件表現を使用しない調査協力者はどのように発話をし、談話を展開しているのだろうか。そこで、対話の『(4) 未来のことを聞く、意見陳述 将来の夢、議論「都会に住むか田舎に住むか」、議論「お金と時間とどちらが大事か」など』について会話をする部分に注目し、条件表現を使用する会話と使用しない会話について具体的に検討していくこととする。

2.1 議論「都会に住むか田舎に住むか」、議論「お金と時間とどちらが大事か」

日本語学習者横断コーパスには二者択一の質問をし、議論をするデータがある。調査の流れによって表現は少しずつ異なっているが、「十年後、二十年後に住むとしたら、田舎と都会、どちらがいいですか」「お金と時間、どちらがたくさんあった方がいいと思いますか」といった形で調査協力者に質問を投げかけている。それに対する回答を、バを使用する場合、タラを使用する場合、ナラを使用する場合、条件表現を使用しない場合の4つに分けて見ていく。Kは調査対象者、Cは、調査者（インタビュアー）を表している。

①バを使用

- (1) JJJ16-I-03000-K 今〈うん〉、んー今は一今は一時間かな
JJJ16-I-03010-C んーどうしてですか
JJJ16-I-03020-K ともかく自分の時間が本当に少ないので〈うーん〉、
もうし、まあたぶん来年なれば少し自分の時間が〈う
んうん〉できると思うんですけどー〈うん〉、まあ子
供達中心の生活なのでー〈うん、うん〉朝子供を送り
出しー〈うん〉まだ {笑} 下の子いるのでずっと〈う
んうん〉世話をしー
JJJ16-I-03030-C うんうん
- (2) JJJ08-I-04240-K お金かな？と〈んー〉思います {笑}
JJJ08-I-04250-C {笑} ってゆうのは
JJJ08-I-04260-K 結果的にお金があれば〈うんうん〉時間も買えるので
はないかと
JJJ08-I-04270-C あーなるほどね、そうゆう考えは、あー
JJJ08-I-04280-K うーんまあ時間があればお金を稼げるのかもしれない
ですけどね {笑}
JJJ08-I-04290-C そうですね {笑}

(1) では「来年」という未来を仮定し、(2) では話者が選択した「お金がある」という状況を仮定して、後件で仮定した状況下での意志や考えを述べている。

②タラを使用

- (3) JJJ10-I-03320-K 田舎の方を選びます
JJJ10-I-03330-C あそうなんですかー、どうしてですか？
JJJ10-I-03340-K あの一人混みがあんまり好きじゃないのでー
JJJ10-I-03350-C へー
JJJ10-I-03360-K もう、うちの近くの〈うん〉町田なんて行ったらもう
だめです〈うん〉疲れちゃいます
- (4) JJJ29-I-03310-C はーわかりました、へー、ではですね、もうそろそろ
最後の質問なんですけど〈あはい〉、また、究極の二

択になっちゃうんですけども〈あはい〉、もしですね、も(もう)好きなだけ、たくさんもらうことが〈うん〉できるんだったら、時間と、お金、とだったら、〈んー〉どっちを取りますか？

JJJ29-I-03320-K 時間です

JJJ29-I-03330-C あ、即答ですねー〈はい〉、それは、どうしてですか？

JJJ29-I-03340-K えー時間ー〈うん〉なんだろう、時間があったらお金も稼げるし〈ふーん〉、人とも会えるし、自分のやりたいこともできるし〈うんうんうんうん〉、なんか特にこの(連体詞)三年間でもっと時間欲しいなって、思ったので

(3) は「人混みが好きではない」ことを具体例を出して説明するために「町田へ行く」を仮定し、後件で「だめ」という評価をしている。(4) はバの(2)の例と同様に調査者の質問内容を想定して、「もしその状況であつたら」と仮定をして、後件で仮定した状況での意志や考えを述べている。

③ナラを使用

(5)JJJ30-I-02960-K 数年前に〈うん〉その都会に憧れて〈はい〉東京の、ほんとにど真ん中に住んだことがあったんですけど

JJJ30-I-02970-C あーそうなんですか、うんうんうん

JJJ30-I-02980-K で美術館も近かったり〈へー〉あと、その劇とかも一番早くにその、東京に来る、ので〈うんうんうんうん〉すごいチケットも取りやすいし行きやすいし〈はい〉だったんですけど、でも比べてみると将来腰を据えて住むなら〈うん〉田舎がいいかなと思いますね

(6)JJJ03-I-03430-C なるほ、なるほどー、分かりました、じゃあま、もう一個、二者択一を〈はい〉お願いしたいんですけど、お金と時間〈はい〉どっちがたくさんあつた方(ほう)がいいと思いますか

JJJ03-I-03440-K あー、難しいですね〈んー〉まあその(連体詞)どっ

ちかならまあお金ですかね

JJJ03-I-03450-C んー、何（なん）でですか？

JJJ03-I-03460-K いやお金で時間を買うという選択が、〈あー〉できる
かなとちょっと

JJJ03-I-03470-C お金で時間を買う

JJJ03-I-03480-K あなんかもう、タクシーに乗っちゃうとか、〈あー〉
それで無理やり時間を作るみたいな、感じ

(5) は提題的用法である。「腰を据えて住む」ことを取り立てて条件としている点でナラに特徴的な用法である。(6) は後置詞的用法（前置き）である。

④条件表現を使用しない

(7)JJJ56-I-03540-K 田舎ですね

JJJ56-I-03550-C あ、そうなんですか〈はい〉どうしてですか

JJJ56-I-03560-K やっぱり自然が好きなので〈うん〉まあ八王子も十分
（じゅうぶん）田舎なんですけど〈うん〉まだまだ、
まだまだ田舎じゃないというか

JJJ56-I-03570-C あ、もっと田舎ということですよ

JJJ56-I-03580-K もうほんとに、そうですね

(8)JJJ15-I-04040-K えー、お金と時間？

JJJ15-I-04050-C はい

JJJ15-I-04060-K 時間、ですかね

JJJ15-I-04070-C 時間ですか

JJJ15-I-04080-K はい

JJJ15-I-04090-C はい、それはどうしてですか？

JJJ15-I-04100-K えー、お、お金ー、はそんなに、何て（なんて）言う
の、お金が、あるのって、そん、ま、いいことなんです
けど〈はい〉いろんなことできてうれしいことす
けど〈うん〉時間がたくさんあったほうが〈はい〉ま、
好きなこともたくさんできるし〈うん〉行きたい所にも
も行けるし、〈うんうんうん〉いいと思いますね

(7) は二つの選択肢のうち一つを選んだ理由を述べ立てている。条件表現を使用する場合は選択肢の状況になった場合を想定して、その状況で考える可能性について述べることによりその選択肢を選んだ理由を述べるのに対し、(7) は理由を述べることで、なぜその選択肢を選んだかに根拠付けをしている。(8) は「たほうが」を使用することで二つの選択肢を比べてどちらがよりいいかを述べていることを示している。

以上より、二者択一の事項について議論をする際に条件表現を使用すると、場面を仮定し、その仮定下で起こりうることを述べることで、自分が選択した項目の理由を述べるために使用しているものが典型であるという見通しがつく。また、条件表現を使わない場合は、自分がなぜその選択肢を選んだかの理由を述べ立てたり、二つの選択肢を比べて、より自分の考えに近い方を選んだという態度を見せる「ほうが」を使用しているという特徴が見られた。

2.2 意見陳述 将来の夢

「未来のことを聞く」中に「将来の夢」についての質問がある。調査者は「希望っていうかこんなふうに過ごしていきたいなみたいな夢ってありますか」のような形で調査協力者に質問をしている。それに対する回答を、2. 1と同様にバを使用する場合、タラを使用する場合、ナラを使用する場合、条件表現を使用しない場合の4つに分けて見ていく。

①バを使用

- (9) JJJ19-I-03240-K これからの夢、えーと、何(なん)でしょうね、毎日 {笑} こんなこと言ったら怒られるかもしれないんですけど、毎日、なんかー音楽聞いて絵を見て舞台を見て、暮らせればいいなって思ってます
- (10) JJJ12-I-02560-K あー、自分の夢はないですけども、まあ子供が全部に育てて〈うーん〉普通に、旦那を連れて来れば、と思っってますはい
- (11) JJJ29-I-02600-K 将来の夢ですか〈んー〉、え、看護師になるので〈あーはい〉、なんかその(連体詞)資格を活かして〈はい〉、

なんだろ、ぶ、なんだろ、できれば、なん海外とかにも出て〈はい〉、なんか役に立ちたいなと思ってます

(9) ではバイイで希望を表している。(10) もバで言いさすことで希望を表している。(11) はデキレバを使用することで「役に立ちたい」という希望にポライトネスな態度を付加している。

②タラを使用

(12) JJJ31-I-04660-K 夢、うーん、そうですね、ま先ほどゆったその（連体詞）ソーフ（ソープ）カービングを〈はい〉、割と、一生懸命頑張っていて〈うん〉、まゆくゆくは教えられたらいいなどは〈はー〉思っています

(13) JJJ45-I-03300-K うーんとまあ先のことはあんまり考えてないんですけどとりあえずは今みたいなスノボ生活を続けられる環境にいき、いられたらと思いますね〈うん〉、で、あとは何（なん）だろう、うーんとうーんまあその就職してそんな時間経ってないので、まあ仕事も頑張れるように、まあ健康になって感じですかね

(14) JJJ08-I-03630-C 小さな夢でもいいです、これはやりたいなーみたいな {笑}

JJJ08-I-03640-K {笑} 小さな夢、は、んー、あの、姉の子供ーが〈うん〉、姪っ子が二人いるんですけど〈えーえー〉、あの、二人、がまだ小さくて〈うん〉、あの、いつか東京に〈うん〉遊びに来てくれたら、一緒にドイツニーランドに行きたいなって思ってます

(12) ではタライイで希望を表している。(13) もタラで言いさすことで希望を表している。(13) は未来を仮定して、後件で希望を述べている。

③ナラを使用

(15) JJJ33-I-03880-K はあのー、まあ、そうですねー、特におっきな夢と

かはないんです、〈んー〉とにかく、まあ社会と触れ合っていたら（という）のが一番あって、〈んー〉今までもまあちょこちょこってゆうか、〈んー〉あの、お仕事はしてたんですけどね、〈んー〉まあ、一か所で、落ち着いて、〈あーはいはいはい〉うん、あの腰落ち着けてじっくりと仕事をしたいなってゆう 〈んー〉感じですかねー、すこせー、少しでも、あのお役に立てるんなら、〈んー〉まあ、うん、そういう形でお仕事をするのが夢ですかね

JJJ33-I-03890-C なるほどー

(15) はナラの仮定的用法である。前件を「真と仮定し」、後件を述べている。

④条件表現を使用しない

(16)JJJ10-I-03160-K はいえーっと、あたしは『赤毛のアン』がさい好き(大好き)でー、〈うーんはい〉プリンスエドワード島に行きたい 〈はーへー〉ずーっと言ってるんです

(17)JJJ03-I-03170-C じゃちょっと明るい話に、シフトしたいんですけど、JJさんの将来の夢を、伺ってもいいですか？

JJJ03-I-03180-K それは、そすね（そうですね）今も結構難しく悩んでいる 〈はい〉とこで 〈はい〉ま今はま博士課程にいますけど、〈はい〉まず多分アカデミックに残るか、〈はい〉企業に働くかっていうところで 〈あー、はい〉ま多分僕は、ま企業に、行っちゃうんだろーうな

JJJ03-I-03190-C あはい

JJJ03-I-03200-K て（って）考えてて、〈はい〉じゃそっから何（なに）をするとか 〈んーんーんーんー〉正直あんまりまだ考え、られない 〈んーんー〉イメージが湧かない、けどあの、そうですね、親にまあ一応博士課程まで結構面倒見てもらってるので、〈んーんーんー〉ま

とりあえず普通に、こう、普通にはとりあえず働こうか、〈笑〉かなっていう気はしてます、はい

(16) では直接的にタイを使用し希望を述べている。(17) は意志を述べている。

以上のように、「将来の夢」を話す際には、条件表現を使用しても使用しなくても希望を表すことが多いことがわかった。

「将来の夢」では条件表現を使用する場合もしない場合も希望を表すことが多いと言える。条件接続辞を使用した希望の表現はタイを使用した希望の表現よりも婉曲的である。条件表現の仮定的用法を使用する場合は、将来の場面を仮定して、後件でその仮定下での希望を述べる例も見られた。

3. まとめ

「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」の日本語母語話者のデータを分析した結果、女性よりも男性の方が条件表現バ、タラ、ナラを多く使用し、また20代はあまり条件表現を使用しないことがわかった。これは、条件文が「因果関係を表す論理文」であり、男性の方が女性よりも因果関係を明示的に思考し、30代以上の社会経験のある世代がより因果関係を明示的にとらえているためであると考えられる。

「都会に住むか田舎に住むか」、「お金と時間とどちらが大事か」について議論する会話では、条件表現を使用した調査協力者は仮定的用法の条件表現を使用して、場面を仮定し、その仮定下で起こりうることを述べることにより、自分が選択した項目の理由を述べていた。条件表現を使わない場合は、自分がなぜその選択肢を選んだかの理由を述べ立てる調査協力者が多く、二つの選択肢を比べて、より自分の考えに近い方を選んだという態度を見せる「ほうが」を使用している例も見られた。

「将来の夢」についての意見陳述では、条件表現を使用した調査協力者も使用しなかった調査協力者も希望を表すことが多かった。

以上より、条件表現を選択して使用すると、未来や不確定のできごとを仮定して、その仮定下で状況や理由を述べることで、因果関係を明示的にとらえて意見を述べたり、希望をひかえめに提示する姿勢を聞き手に表すことができる

と考えられる。

「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」は日本語母語話者の他に、12の言語を母語とする日本語学習者に対しても調査を行っている。今後は日本語学習者のデータについても同様の分析を行い、その特徴を明らかにしたい。

参考文献

- 有田節子 (2007) 『日本語条件文と時制節性』 くろしお出版
- 小野正弘 (2019) 「夏目漱石『心』の発話における文末構造—物語の展開ならびに内容との関わり—」、『表現研究』第110号、表現学会
- 高梨信乃 (2010) 『評価のモダリティ現代日本語における記述的研究』 くろしお出版
- 鄭相哲 (2004) 『日本語認識モダリティの機能的研究—ダロウを中心に—』 J & C
- 奈良夕里枝 (2012) 「日本語条件表現における後件のモダリティー制約」『フェリス女学院大学文学部紀要』47号、フェリス女学院大学
- (2013) 『日本語条件表現とモダリティに関する研究』博士学位請求論文、韓国外国語大学
- (2014) 「文のタイプによる非条件的な用法のバの出現様相について」『日本語文学』第63輯、日本語学会
- (2020) 「日本語教育の実践におけるナラとナラバの扱い—文体差教育の一例として」『フェリス女学院大学文学部紀要』55号、フェリス女学院大学
- 仁田義雄 (2009) 『日本語のモダリティとその周辺』 ひつじ書房
- 日高水穂 (2017) 「認識的条件文の地理的変異の類型」『日本語条件文の諸相—地理的変異と歴史的変遷—』 くろしお出版
- 前田直子 (2009) 『日本語の複文—条件文と原因・理由文の記述的研究—』 くろしお出版
- 益岡隆志 (1993) 「日本語の条件表現について」『日本語の条件表現』 くろしお出版

コーパス

『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』 国立国語研究所